

「新しい公共」「高野熊野広域バイリンガルガイド養成事業」

講題 “ 仏教の全体像をみてみよう ” 平成 24 年 (2012 年) 3 月

講義の概要 :

紀州のユネスコ世界文化遺産は、高野山と熊野いずれも宗教・信仰・祈りに深く関わっている。だから、ガイドはこれらについてのより広く深い知識と理解に基づいた説明が期待されている。しかし、私たちが例えば伝統的な自然崇拝や神道・仏教について十分に理解し、それを分かりやすく説明するのは、たいそう難儀なことである。特に、長い歴史を持つ仏教は、多くの宗派に分かれ、複雑な様相を見せているので、断片的な知識を頭に詰め込むだけでは茫洋としてしまう。

そこで今回の講義では仏教を取りあげ、その全体像を眺めることにより、仏教の根本精神をつかみ、日本仏教の個々の宗派の立ち位置を知って、仏教をより深く理解する一助にしたいと思う。

私たちが辿ろうとしている流れは大まかに言って次のようになるであろう :

釈尊の思想、弟子たちによる上座部仏教(小乗)、それに対する批判から生まれた大乘仏教、その北伝と中国仏教、そして最後に日本仏教の歴史と宗派。ここでは、悟りと慈悲という釈尊の二大根本思想が基調をなし、それが様々な音色と色彩を帯びて四方へ広がる様子を見ることになる。この大きな流れを押さえておけば、私たちが日々出会う様々な経典、仏像、仏具、念仏、儀式、修行、座禅などの意味が少しずつ見え、それらが有機的につながってくるようになるであろう。

もとより、2時間たらずの話では、ほんの表面を皆でなぞるくらいしかできない。後は、各自の粘り強い研鑽により、少しでも“私の仏教理解”を進めていってほしいと願う。仏教はまさに“如是我聞”なのである。

キリスト教・イスラームと比べてみれば、仏教が分かりやすくなる場合が多い。特に外国人に説明する場合、この比較はたいそう有効である。時間の許す限り、試みてみたい。

講師 : 山本寧雄